



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で “手から手へ” という意味です

かかりつけ薬剤師・薬局と
健康サポート薬局とは

〔当法人評議員〕

青梅市立総合病院

田中 三広 [薬剤師]

医薬分業となつてから大半の薬局が調剤に特化し、処方箋がなければ薬局に入りにくい状況でした。このような中、医薬分業の原点に立ち返り、現在の薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するため、厚生労働省において、2015年10月に「患者のための薬局ビジョン」が策定されました。2016年度の診療報酬改定において「かかりつけ薬剤師指導料」が新設され、2025年までには、すべての薬局が「かかりつけ薬局」に再編される予定です。

かかりつけ薬剤師・薬局は、服用歴や現在服用中の全ての薬剤に関する情報等を一元的・継続的に把握し、複数診療科を受診した場合でも、多剤・重複投薬等や相互作用のチェックを行い、薬の副作用や期待される効果の継続的な確認を実施します。在宅に移行しても、同様に行き届いた薬学的管理を行います。過去の服薬情報等が分かる薬剤師が相談に乗り、薬について不安なことが出てきた場合には、24時間対応しますので安心です。かかりつけ薬剤師からの丁寧な説明により、薬への理解が深まり、飲み忘れ、飲み残しが防止され、これにより、残薬が解消されます。これら多くのメリットのあるかかりつけ薬剤師になるには、保険薬剤師として3年以上の経験、週32時間以上の勤務、その薬局に6ヶ月以上在籍、認定薬剤師であること、地域活動に参画などの要件があります。かかりつけ薬剤師は、患者さんひとりにつき、一人となります。患者さんは複数の薬局でかかりつけ薬剤師をもつことはできません。かかりつけの薬局を持ち、信頼できる薬剤師を決めて活用することが大切です。

かかりつけ薬剤師・薬局の基本的な機能に加え、更に地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援する薬局が「健康サポート薬局」です。健康相談は当然のこと、多職種と連携するなどより積極的に情報発信します。要指導医薬品（一般医薬品になってから3年以内の医薬品や劇薬、毒薬）等、衛生材料及び介護用品等について、患者さん自らが適切に選択できる供給機能、専門的知識に基づく助言を行う体制があり、土日も一定時間開局する必要があります。

健康問題を取り扱う情報は、テレビ・新聞・雑誌・インターネットなど、さまざまなメディアを通じて氾濫しています。それらを親身になって相談できる身近な存在が健康サポート薬局のかかりつけ薬剤師だと思えます。糖尿病患者さんに対して合併症の予防・進展防止のために眼科や歯科への受診勧奨、特に、栄養指導を受けたことがない場合の受診勧奨もかかりつけ薬剤師の重要な役割です。

現在、健康サポート薬局は土日開局などの条件があり届け出を行っている薬局は多くはありませんが、かかりつけ薬剤師・薬局は増えてきています。糖尿病などの慢性疾患を有する患者さんは、服薬情報の一元的・継続的な把握の必要性が高いことから、特にかかりつけ薬剤師を選択してもらうことが重要です。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 災害時のための患者指導として 正しいのはどれか、2つ選べ。 (答えは7ページにあります。)

1. 災害時のことを考えて薬の備蓄をしておきましょう
2. 食事の内容にかかわらず、インスリン注射は決められた量を打ちましょう
3. 菓子パンは血糖値が上がる可能性があるため、食べないようにしましょう
4. 他人とペン型注射器と一緒に使用するときは、感染予防のため針を交換しましょう
5. 消毒綿がなくてもインスリン注射は継続しましょう



報告

第22回TAMA生活習慣病フォーラム

日時:平成29年3月11日(土)
場所:調布市文化会館たづくり

【本法人理事】代表世話人 かたやま内科クリニック 片山 隆司 【医師】

平成29年3月11日(土)に調布市文化会館たづくりにて、第22回TAMA生活習慣病フォーラムが開催されました。テーマは「糖尿病臨床20年史 ～EBMと治療薬の変遷から実臨床の進歩を検証する～」。

当日は、フォーラム開催にさきがけて6年前の東日本大震災の被災者への哀悼の意を込めて黙祷致しました。今回は、糖尿病治療の近代史がテーマという事で、まずご開業されてから37年の年月となる伊藤内科クリニック 伊藤眞一先生より、ご自身のクリニックでの20年間1度も治療を中断しなかった糖尿病患者さんの治療方法・HbA1c・網膜症・腎症の推移をITOスタディーとしてお示しいただきました。

第Ⅱ部 基調講演では、株式会社大和調剤センター 森貴幸先生より、ご自身の体験に基づきインスリン・SMBG・CSIIの変遷、そして最新のCGM機器の感触もお話いただき、多摩地区にある糖尿病災害時地域ステーションについてご紹介いただきました。第Ⅲ部 基調講演では、私が担当し、前回のフォーラムでのおさらいをした上で、過去20年の糖尿病治療EBMと近年登場した糖尿病治療薬を実臨床にどう活かしたらいいか具体的な症例を提示しながらお話ししました。最後に、真の患者中心の医療のためにはEBMと患者さんとの対話NBMに基づきその患者に最も適した治療法を決定する事の重要性を提示しました。

終了後のアンケートにおいても、さまざまな感想・ご意見をいただき、ほとんどの方が次回も参加したいという回答で当フォーラムへの参加者の期待を実感する事ができました。



伊藤先生



報告

第3回糖尿病とWell-aging研究会

日時:平成29年3月18日(土)
場所:三鷹産業プラザ



益崎先生

平成29年3月18日(土)に三鷹産業プラザにて「第3回糖尿病とWell-aging研究会」が開催され、49名の方が参加されました。

第一部では、貴田岡正史先生の司会のもと、「高齢糖尿病患者のプロダクティビティを考える～糖尿病とWell-aging研究会での調査から～」と題して東京医科大学八王子医療センター 松下隆哉先生に高齢者プロダクティビティ調査と健康関連QOLであるSF-8の結果報告について、また「同一医師が20年以上管理し得た糖尿病患者155名～重症網膜症合併及び重症大血管症の現状～」と題し伊藤内科クリニック 伊藤眞一先生に1996年より2016年の期間における血糖管理と合併症の関係についてご講演いただきました。

第二部では、植木彬夫先生の司会のもと、「超高齢社会の生活習慣病診療:沖縄における取組み」と題して、琉球大学 益崎裕章先生より、健康の自己責任が求められる人生100年時代の到来と人工知能AIの登場から精確医療と呼ばれるPrecision MedicineとDigital Health Careなど今後の医療の展開、医療特区沖縄での先進医療と全島WIFI久米島での取り組み、動物性脂肪摂取と身体活動や依存、肥満と腸内細菌フローラ、γ-オリザノールなど多岐にわたり最新の話題を提供いただきました。

最後に当研究会の代表世話人である植木彬夫先生から、「第3回糖尿病とWell-aging研究会」の開催において高齢者医療から人工知能AIを活かした医療まで今後来るべき人生100年時代に向けた医療改革についてトップランナーの講師より拝聴する大変有意義な機会であったことを閉会の辞としていただき、盛会のうちに終了しました。

報告

第17回西東京糖尿病療養指導士認定式

日時:平成29年4月4日(火)

場所:立川市女性総合センター・アイム

【本法人理事】 糖尿病療養指導士関連事業担当理事 医療法人社団桜一会 かの内科 菅野 一男 【医師】

2017年4月4日に立川市女性総合センター・アイムにて例年通り西東京糖尿病療養指導士の認定式を実施しました。今回の養成講座受講者数は148名、認定試験受験者数は122名でした。合格者数は110名で受験者の90.2%が見事合格されました。

東京女子医科大学東医療センターの病院長に就任されたばかりの内潟安子先生に、非常にお忙しい中ご講演していただき、合格された糖尿病療養指導士の皆さんに門出に際し、暖かい励ましの言葉をいただきました。

合格された職種の内訳は看護師・准看護師30名、管理栄養士・栄養士38名、薬剤師23名、臨床検査技師4名、理学療法士7名、その他の職種8名でした。介護関係の方も合格され、今後さらに糖尿病医療と介護の連携を強化されることを願っています。

7月30日には西東京糖尿病療養指導士初級講座を開催し、介護職の方々と一緒に糖尿病を学び、さらに強力に患者さんの力になれるように考えています。

【平成28年度認定試験状況】

養成講座受講者数	148名
認定試験受験者数	122名
合格者数	110名
合格率	90.2%

※昨年度受験できなかった受験者を含む

合格者職種	人数
看護師・准看護師	30
管理栄養士・栄養士	38
薬剤師	23
臨床検査技師	4
理学療法士	7
その他	8
受講者合計	110

合格者の声

【本法人会員】 医療法人財団 敬寿会 相武病院 沖中 大 【理学療法士】

私は療養型の病院で主に維持期・終末期の患者様方と向き合っています。入院患者様の中には糖尿病の方や人工透析を受けている方も多くいらっしゃいます。同僚の先輩が昨年度の養成講座に参加して、私もこの資格の存在を初めて知りました。初めは無知で「療養指導って何?」「運動や合併症以外はリハビリに必要な知識?」というような気持ちもありました。しかし養成講座では理学療法士としての運動指導はもちろんのこと、チームアプローチの必要性、心理・行動面にも配慮した患者教育の考え方、実際の経験を踏まえた具体的な療養指導例など、先生方のご講義はとても興味深く大変参考になるものばかりでした。また患者様に対してだけでなく、自然と自分自身の食事や運動、血液データ等をより意識するようになりました。3か月に渡る業務後の養成講座や試験勉強は決して楽なものではなかったのですが、知識が増えるにつれてさらにモチベーションが上がり試験当日は「絶対に合格してこの知識を活かして患者様方を支援したい」という強い気持ちで臨みました。そして無事合格通知が届き認定証も頂きました。新たな第一歩を踏み出せた気持ちで嬉しかったです。CDEJより難しく作られている西東京の試験の合格率が9割だということはそれだけ受験者の意識が高い証であり、職場は違いますがより良い療養

指導を目指して皆で取り組んでいきたいと新米ながらに思っております。



報告

第32回武蔵野糖尿病研究会

日時:平成29年4月8日(土)

場所:三鷹産業プラザ

平成29年4月8日(土)三鷹産業プラザにて、『第32回武蔵野糖尿病研究会』が「糖尿病とがん」をテーマに開催されました。

基調講演は、武蔵野赤十字病院 内分泌代謝科の内田諭先生より「当院における糖尿病を契機に膵癌と診断された患者の臨床像」について、武蔵野赤十字病院のデータを中心に、疫学・病態・診断についても講演いただきました。膵癌発症初期には特徴的な症状がなく、早期に有用な診断マーカーもないため、多くの患者は糖尿病診断後2年以内に膵癌と診断されます。肥満のない高齢者で急激な耐糖能増悪を見た場合、膵癌の可能性を念頭に置き、スクリーニングが望ましいとお話をいただきました。

特別講演は、国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター長の植木浩二郎先生より「糖尿病とがん」について、大規模臨床試験の詳しい解説から糖尿病と癌との関わりについてお話をいただきました。日本人の糖尿病患者では肝臓がん・膵臓がん・大腸がんの合併率が高くなっており、また肥満の重症度が上がると発癌のリスクが高くなることや、糖尿病治療薬と発癌との関係についての内容もありました。糖尿病や肥満は、様々

な疾患のリスクであり、体重減少を目指した介入も癌のリスクを減らすには有効であることなどを講演いただきました。

当日は47名の先生方にご参加いただき、質疑応答でも熱心な意見交換がされ、大変有意義な会となりました。



報告

第47回糖尿病食を作って食べて学ぶ会

平成29年4月25日(火)立川市女性総合センターアイム
平成29年5月30日(火)ルミエール府中

【本法人会員】 登録管理栄養士 (株)グリーンハウスヘルスケア 深浦 徳子 【管理栄養士】

『第47回糖尿病食を作って食べて学ぶ会』を4月25日立川、5月30日府中で開催し、計39名の参加がありました。今回は、「あぶらってからだに良いの??」というテーマに対し、資料を用いてあぶらの働き、適量を上手にとる方法、てんぷら、フライを食べるコツも盛り込み、説明をさせていただきました。参加者の中には、揚げ物は控えているという方も多く、ご参考にしていただける資料をお渡しすることができたと思いました。

調理実習は、もち麦入りごはん、不足しがちなn-3系多価不飽和脂肪酸が取れる魚料理として、鰯とカラフル野菜のさっぱり焼き、かぶの塩麹和え、たけのこの土佐煮、オレンジの赤ワイン漬けを実習いたしました。参加者からは、「彩りがきれいで、鰯が簡単に南蛮になることが分かった」、「塩麹の使い方を学べたので、家でも使ってみたい」、「オレンジの赤ワイン漬けがとてもおいしかった」などの声が聞かれました。次回48回調理実習は、10月立川、11月府中にて開催いたします。内容は、鶏肉を使った料理を予定しております。日程と内容は事務局にお問い合わせください。皆様のご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

第47回

調理実習



今回のメニュー

- ・もち麦入りごはん
- ・鰯とカラフル野菜のさっぱり焼き
- ・かぶの塩麹和え
- ・たけのこの土佐煮
- ・オレンジの赤ワイン漬け



事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返答にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話くださいようお願いいたします。

 第18回 西東京糖尿病療養指導士養成講座

申込必要

本年も、西東京糖尿病療養指導士養成講座を 立川市女性総合センターアイムにおいて開催いたします。

期 間：平成29年9月～12月

時 間：19:00～21:00（開場18:30）

場 所：立川市女性総合センターアイム 1階ホール（JR「立川駅」北口徒歩7分）

受講料：14,000円（全14回講義分として）

日 程： 9月 ⇒ 6日(水) 13日(水) 20日(水) 28日(木)
 10月 ⇒ 2日(月) 10日(火) 16日(月) 27日(金) 30日(月)
 11月 ⇒ 9日(木) 17日(金)
 12月 ⇒ 1日(金) 11日(月) 19日(火)
 予備日 ⇒ 12月27日(水) ※休講等、不測の事態に備えた補講日

定 員：190名（定員に達し次第締め切ります）

テキスト：「糖尿病療養指導ガイドブック 2017」

（日本糖尿病療養指導士認定機構 発行 ㈱メディカルレビュー社 発売 税込3,024円）

※テキストは、当日までに各自ご用意ください。

書店にご注文いただくか、インターネット(アマゾン、楽天ブックス等)でも購入できます。

申 込：当法人ホームページ【<https://www.cad-net.jp/>】より

※申込方法の詳細は、以下の頁でご案内します。

トップページ > 「重要なお知らせ」 > 「第18回西東京糖尿病療養指導士養成講座のご案内」
又は「新着情報」

西東京糖尿病療養指導士・認定試験実施日：平成30年2月18日（日）

※試験の詳細については、講座期間中にご案内します。

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

【受講資格】当該講座の受講には、以下の2点を満たすことを必要とする。

1. 西東京糖尿病療養指導士の取得を望む者全ての者を対象とする。但し、医療職以外が取得を望むときは、認定審査委員会の審査を必要とする場合がある。
2. 所定の期日までに申し込みをし、受講料を納めること。





第60回日本糖尿病学会年次学術集会

平成29年5月18日(木)～20日(土)

名古屋国際会議場

[本法人会員]
東大病院附属
セントラルクリニック

原島 健太 [管理栄養士]

レポート1

以前より「エネルギー制限食」と「糖質制限食」についての議論が続いていますが、今学会にてエネルギー制限食と糖質制限食のディベートへ参加してきましたので、ご報告させていただきます。

まず、エネルギー制限食推奨派は、食品交換表に基づくカロリー制限は合併症の発症・進展の抑制を図れるとしていることを大きな利点とし、糖質制限食については利点(体重減少効果、食後高血糖の低下など)を認めた上で、注意点(対象者、実施期間、合併症など)についても示し、有効性と危険性を考えた上で実施することが望ましいと述べられていました。

一方で、糖質制限食推奨派は、糖質制限についての有効性と安全性について示され、糖尿病診療ガイドライン2016にあるカロリー制限(非肥満者に標準体重×25～30kcal/kg)は有効性についてエビデンスが不十分であるということを述べられていました。

有効な食事療法についての結論がでることはありませんでしたが、どちらの先生も日本人における研究やエビデンスが不十分と述べられており、今後の報告を待ちたいと思います。

私が学生の頃は食品交換表を使用したエネルギー制限食が糖尿病における食事療法の中心でしたので、こういった機会では、食事療法の進歩に驚きを感じてしまいます。

今学会で杏林大学の石田先生からも、「個別化の尊重」と「実行性の高い柔軟な対応」が求められると、管理栄養士へメッセージを頂きましたが、食事について様々な角度からアプローチすることにより患者さんの選択の幅が広がり、より適した食事療法が選択できるのではないのでしょうか。

今後は高齢化によるサルコペニアや多様化する食習慣(朝食の欠食)など考慮したうえで患者の希望に配慮した「テーラーメイドの食事療法」が提案できるよう日々努力していきたいです。

第2日目のシンポジウム19「チーム医療とテーラーメイド糖尿病療養指導の実現力」を聴講しましたので報告致します。

シンポジウムの前半は、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士の6職種6名が患者さんとの関わり、努力、工夫を盛り込みながら、それぞれの立場から活動内容を報告されました。

後半は、他職種との交わりを中心に地域との交わりまで、「情報共有」をキーワードに活発な討議が進められました。とくに担当医師の交代時には患者さんの戸惑いが多くみられ、チームで支える力が必要であるという内容が心に残っています。また北海道大学の検査部では、部門に配属された技師は必ず糖尿病チームかNSTチームに所属するという報告には驚きました。討議中にもありましたが、臨床検査技師、理学療法士は保険点数がつかない事もあり部内でも業務を抜けづらい雰囲気があります。西東京における5職種での活動は全国に先駆けた取り組みであり、チーム参画の意義、意欲を再認識しました。シンポジウムは、CDEJ理事長の「チーム医療を評価している」という言葉で締めくくられました。

最後になりましたが、理学療法士のシンポジウムは当法人の天川淑宏先生でありました事を誇らしく思いつつ会場を後にしました。

[本法人会員]
武蔵野赤十字病院
山口 佳美 [臨床検査技師]

レポート2



学会発表の機会を初めて得ましたので、ご報告いたします。

昨年で第10回を迎えた「西東京運動指導スキルアップセミナー」について、当法人から「運動療法スキルアップセミナー 10年間の取り組み事例報告」と「糖尿病運動療法指導者育成のためのセミナー2016の報告」の2演題を発表しました。本セミナーは、毎年1回開催し、1日のセミナーで運動療法を如何に指導していくかを学んでもらう全国的にも珍しい取り組みで、例年その活動報告を本学会で行っています。

私は後者の発表を担当しました。準備段階では予演会等を通して世話人の皆様から、本セミナーの魅力が伝わるポスターの作成の仕方や話し方の指導をして頂き、当日を迎えることが出来ました。発表は夕方からでしたが、午前中にポスターを掲示し、同時に昨年のセミナーで使用したテキストの閲覧と、次回セミナーの予告チラシの持ち帰りが出来るようにしました。発表前にはテキストが多くの人の手にとられた跡があり、また予告チラシが多数持ち帰られており、本セミナーに対する関心の高さが伺えました。本番の持ち時間3分はあっという間に終わり、直後はデビュー戦の緊張から解放された安堵感に包まれました。

学術集会は貴重な学びの場であるため参加はするものの、発表は敷居が高いと感じて及び腰になる方が少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか。指導してくれる人がいない、方法が分からないなど理由は様々あると思います。私は、過去に参加した学術集会では情報の収集に終始していましたが、今回は情報を発信する立場になり学術集会が少し身近に感じられました。まだ学会発表を経験したことのない方は、もし機会があれば迷わずチャレンジしてみたいはかがですか。

【本法人会員】

医療法人社団 守成会 広瀬病院
永田 昌宏 [理療士]

レポート3

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただくことがございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00 / 13:00～16:00にお電話ください。よろしくお願いいたします。

お悩み解決 《会員マイページ Q&A》

Q. ホームページでパスワードを再発行したのに届かないのですが、どうしたらいいですか？

A. パスワードは、会員IDに対して送信されます。すなわち、当法人にご登録されているメールアドレスにのみ送信されます。お心あたりのメールアドレス全てでお試しください。届かない場合は、「※会員IDをお忘れの方はこちらから」より、まず会員IDをお問い合わせください。追って事務局よりご連絡いたします。

会員ID（メールアドレス）は正しいのにパスワードが届かない方は、いま一度、当法人のアドレスが受信可能な状態かお調べください。特に携帯電話のメールアドレスは、当法人のアドレスを受信可能なアドレスに設定してからパスワードの再発行を行ってください。また、ご使用のメールソフトで迷惑メールとみなされている場合もありますのでお確かめください。

パスワードをお忘れの方

パスワードをお忘れの方は、パスワードを再設定します。登録したメールアドレスを入力し、「確認」ボタンをクリックしてください。登録したメールアドレスに新しいパスワードを送信します。

パスワードをお忘れの方はこちら

メールアドレス

このメールアドレスに新しいパスワードを送信する

会員IDをご不明な方は、こちらから事務局へお問合せください。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 1, 5 下記の解説をよく読みましょう。

（問題は1ページにあります。）

解説

1. ○
2. ×食事の変化などに対応して、インスリン量の調整をしましょう。
3. ×まずは、エネルギー確保。その時に食べられるものを食べましょう。
4. ×インスリン製剤は、感染の危険性があるので決して他人が使用中の物を貸し借りしない。
5. ○



被災時、被災後の生活を一度は考えて相談しておくように指導。災害について考える場を定期的に設けること。

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 直接事業
 ☒ 間接事業
 ☐ その他

☒ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 倫理研修会

☒ 申込必要

テーマ：『これから臨床研究を発表したいアナタがすべきこと』

開催日：平成29年8月26日（土）16:00～17:00

場所：国分寺労政会館 4階（JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分）

参加費：無料

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（8/20締切）

詳細資料の
同封あり

☒ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 糖尿病災害対策委員会

☒ 申込必要

テーマ：『サバイバルマニュアル第2版のご紹介～災害時の食事であわてない、非常食の使い方を知ろう～』

開催日：平成29年9月3日（日）14:20～16:00

場所：武蔵野スイングホール 11階（JR中央線「武蔵境駅」北口下車 徒歩2分）

参加費：無料

申込：FAX：042-322-7478（8/27締切）

詳細資料の
同封あり

☒ 第23回TAMA生活習慣病フォーラム

☒ 申込必要

開催日：平成29年9月9日（土）17:00～19:30

場所：調布市文化会館たづくり 12階 大会議場（京王線「調布駅」広場口下車 徒歩3分）

参加費：500円 申込：FAX：042-400-5952（9/1締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

詳細資料の
同封あり

☒ 第11回西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

☒ 申込必要

テーマ：『高齢者のための運動療法』

開催日：平成29年9月10日（日）8:30～17:00

場所：専門学校 社会医学技術学院（JR中央線「東小金井駅」下車 徒歩3分）

参加費：当法人会員 5,000円 / 一般 7,000円

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（9/3締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

☆健康運動療法士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な必修単位＜講義/実習＞：計6.5単位申請中

☐ 第18回糖尿病予防講演会

☐ 申込不要

テーマ：『もっと気楽に糖尿病ライフ』

開催日：平成29年9月30日（土）14:00～17:25

場所：ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥（京王線「府中駅」下車 徒歩6分）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

詳細資料の
同封あり

☒ 第22回糖尿病療養担当者のためのセミナー

☒ 申込必要

開催日：平成29年10月1日（日）9:50～18:00

場所：東京経済大学 国分寺キャンパス2号館（JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩12分）

参加費：4,000円 申込：FAX：03-5574-9970（9/19締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

詳細資料の
同封あり

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



今年はCDEJの更新の年で、先日何とか症例レポートを書き終え提出しました。毎回思うことなのですが、もっと早くから準備すればこんなに苦しまなくて済むのに…、と。次はもっと計画的にコツコツ1症例ずつ溜めておこう、なんて反省をします。が、同時に子供のころの夏休みの宿題を思い出し、同じことをしているなあ可笑しくなります。性格や習慣はなかなか変えられないものですね。（広報委員 永田美和）